

日本福音ルーテル教会 女性会連盟 第22期 150号

会報



総主題

「キリストが望んでおられる」 喜び・祈り・感謝

2015. 4. 15

発行 日本福音ルーテル
教会女性会連盟
〒169-0072 東京都新宿区
大久保 1-14-14
発行者 鈴木 直子
編集者 寺嶋 文世
印刷 平山印刷出版

主題聖句

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」
テサロニケの信徒への手紙一 5.16～18

あなたへ



友愛について

喜望の家

釜ヶ崎委員会・委員長

沼崎

勇

フランスの思想家モンテーニュは、『随想録』（関根秀雄訳）の中で、次のように述べています。

「ほんとうに、どんな悲痛でも、それが極度に達すると、魂全体を麻痺させてその活動の自由を妨げる。例えば、きわめて不吉な報知にどしんと胸をつかれると、この身が抱きすくめられ凝り固まったように、いわばあらゆる運動をうばわれたように感じ、あとで涙と嘆きとの中にとけほぐれるようになって、始めて魂がとき放され、縛めをとかれ、ゆるやかになり、自分の自由にかえるように思われる」と。

喜望の家に来て、断酒している利用者は、このような悲哀の極みを経験し、酒に酔うことで、悲しみを忘れようとしてきた方たちです。それでは、飲酒に逃避せずに、石のように凝り固まった魂を、いつたいどうすれば解放することができのでしょうか。

そのために必要なのは、自分の悲し

みを洗いざらい話しても、自分を信頼してくれる友人を持つことです。喜望の家には、すべてを打ち明けても、愛してくれる仲間がいます。だから利用者の方たちは、断酒を続けることができるのです。

パウロは、「いつも喜んでいなさい」（Ⅰテサロニケ5・16）と勧めています。しかし、喜べない現実があります。それでも喜ぶためには、私たちがすべてを打ち明けても、キリストに代わって、愛してくれる友人が必要なのではないでしょうか。

キリストを信じる者の群れである教会には、すべてを打ち明けても、キリストに代わって、愛してくれる信仰の仲間がいます。だから私たちは、極度の悲しみのゆえに、魂が石のように凝り固まってしまうような出来事に遭遇しても、いつも喜ぶことができるのだ、と思います。